

## 平成 29 年度 第 2 回西宮市エネルギー推進部会 議事録（発言要旨）

- 開催日時: 平成 29 年 11 月 20 日(月) 13:30~15:00
- 開催場所: 西宮市役所 本庁 5 階 541 会議室
- 出席委員: 野島部会長、小川副部会長、野村委員、山崎委員、那須委員、曾我部委員、加美田委員、雪山委員
- 事務局: (環境局)須山局長  
(環境・エネルギー推進課)山中課長、吉田係長、八木係長、高坂副主査  
(株)地域計画建築研究所(アルパック)長澤、駒

### 1. 資料確認

- ・ 次第には無いが、第 1 回エネルギー推進部会の議論の中で、今年の推進計画に関連するものだけをご報告頂きたい。(委員)
  - 前回のエネルギー推進部会では、事務局の方から、温暖化対策実行計画-ECO プラン-、西宮市再生可能エネルギー・省エネルギーの 1 本化を行いたいと提案をした。(事務局)
  - 委員から頂いた主な意見として、今回、上位計画である新環境計画の改定と並行して行うため、上位計画と整合性がとれていることが確認できるように、新環境計画の改定作業の進捗状況をエネルギー推進部会でも報告すべきである。また、温暖化対策実行計画-ECO プラン-と西宮市再生可能エネルギー・省エネルギーは、何が異なり、何が似ているのか、1 本に統合した時、どのような形になるのかをまとめた資料が必要であるとの意見が出た。(事務局)
  - また、最後に、2つの計画の統合にあたり、コンセプト・基本方針の整合性を取ることで、どのような相乗効果が見込めるのかを整理するべきとのご意見を頂いた。(事務局)

### 2. 新環境計画について

- ・ 改定スケジュール案だが、4月に環境審議会に新たな新環境計画素案が提出され、7月に答申とあるが、素案に対する質疑応答は、どのタイミングで答申案に反映されるのか。また、エネルギー推進部会では、新環境計画の素案はいつご報告頂けるのか。エネルギー推進計画の改定にも大きく関連するので、教えていただきたい。(委員)
  - 第 3 回エネルギー推進部会を、本体である第 3 回環境計画推進パートナーシップ会議以降に開催し、新環境計画の素案の報告ができるようにする。新環境計画の進捗状況と同様にご報告させて頂く。(事務局)

### 3. エネルギー関連計画の見直しについて

- ・ 計画推進に関しては、記載された事業等の実施時期を示す年度計画や、PDCA サイクルの回し方等が重要である。この 2 点は盛り込まれるのか。(委員)

- ・ ご指摘のとおり、年度計画を検討したい。また、COP23でもPDCAを回しながら様々な主体と連携していくことが重要という議論がされており、本市でもそうした手法を検討したい。(事務局)
- ・ 第5章に関して、現在は温室効果ガス排出量、再エネ導入量、電気使用量削減という3つの目標を、新たな計画では温室効果ガス排出量に1本化するとある。温室効果ガス排出量の推計値を用いる場合、電気の温室効果ガス排出係数はどうするのか。電気の電源構成がわからない中で、市レベルで温室効果ガス排出量を出すのは困難ではないか。加えて、温室効果ガス排出量を出すことが困難な状況で、温室効果ガス排出量を目標に設定するとした場合、進捗把握が困難になるのではないか。(委員)
  - 市で立てる計画としては、工夫が必要である。何かご意見があれば頂きたい。(事務局)
  - 他市では、どのような事例があるのか。(委員)
  - 基礎自治体レベルで正確な温室効果ガス排出量を算出するのは難しいが、他都市では国の目標に倣ってCO2排出量を目標に掲げる場合が多い。エネルギー消費量については、今後、太陽光等の再生可能エネルギーの供給が増えること、さらに家庭・事業者で製造したエネルギーを自家消費する割合が増えてくることを想定すると、現在のようエネルギー消費量を把握することが困難になると想定される。そうしたことから、温室効果ガス排出量を目標にする案を出した。(事務局)
  - 他地域では、新電力を含めた電力事業者の協力により、消費量データの提供を受け、エネルギー消費量や温室効果ガス排出量を把握する方法なども用いられている(事務局)
  - 市民の努力と排出量の結果が、一致しない場合、どのようにして市民のやる気を引き出すのか。結果として出す数値が、ある程度、市民生活に根拠のある数値でないといけない。(委員)
- ・ 前回の部会でも議論したと思うが、何世帯かのモデル世帯を設けて、そうした世帯のサンプリングデータを集めて、仮の数値になるが、西宮市でより実態に近い指標を作成する方法もある。(委員)
  - 他の自治体の取り組みを調べれば、参考になる方法が見つかるのではないか。(委員)
  - 関西圏の自治体で参考になるのは、生駒市であり、西宮市と人口規模が同じ自治体では、松山市が参考になる。(事務局)
- ・ 関西電力に、全世帯のデータを出してもらうのは、守秘義務と作業量の観点から難しいだろう。関西電力に1世帯あたりの電力使用量の平均値の算出を業務委託し、提供してもらう方法なども検討できないか。その数値を西宮市の人口や世帯数等に乗じて継続的に排出量を出すという方法もある。(委員)
- ・ 近年は超大型台風などの異常気象が多発しており、市民も自分たちの生活が環境変化の影響を受けていると実感しているはずである。その点を踏まえると、市民の生活の目標にもなる排出量削減の目標値は、重要になるだろう。(委員)

- ・ 啓発を有効に行うためには、市民が「目標と現在の状況（数値）」を理解することが重要である。そう考えると、目標の設定、排出量の推算方法は、他市の動向も含めてもう一度検討した方が良いだろう。（委員）
  - ・ 廃棄物減量推進部会では、小規模事業者のデータを収集して、そのデータからトータルの温室効果ガス排出量を算出する手法を検討している。そうした方法が利用できれば、今持っているデータから部門別の温室効果ガス排出量を出せるのではないか。（委員）
  - ・ 事業者からの温室効果ガス排出量の概要がつかめれば、市民の人口・世帯数はわかっているのので、先ほどのモデル世帯のデータから算出した排出量などと合わせれば、市内からの温室効果ガス排出量を算出できるのではないか。（委員）
  - ・ 温暖化対策実行計画-ECOプラン-に関して、西暦と平成をどちらかに統一したほうがよい。（委員）
  - ・ 総合計画、環境基本計画と連動しての話だと思うが、本計画の目標年度は、国の目標年度と2年ずれるため、目標設定が難しくなるのではないか。（委員）
- 計画年度に関しては、今回前倒しで、エネルギー推進計画を改定することになったのは、上位計画である新環境計画の目標年度と合わせるということが目的である。西宮市独自の目標年度になるが、2028年度に設定している。（事務局）
- 個別施策を考えていく中で、個別施策の実行による削減効果の積み上げを計算する方法もあるので、目標設定に関しては、今後検討したい。（事務局）
- あくまで、参考値であるが、2030年度は何%削減という形でも出すことは可能なので、今後調整していく。（事務局）
4. その他
- ・ 第3回エネルギー推進部会を2月～3月に開催予定である。第3回環境計画推進パートナーシップ会議開催以降に行うよう調整する。（事務局）